

## 式 辞

今まさに満開を迎えようとする花の姿、勢い、大気の匂いが、春の息吹を届けてくれる今日のよき日に、同窓会副会長、会長代行 佐藤 務 様、PTA全日制会長 大塚 和幸 様、同定時制会長 塚田 嘉代子（かよこ）様の御臨席を得て、栃木県立真岡高等学校平成29年度入学式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びとするところであります。

ただ今入学を許可いたしました、215名の新入生の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から楽しみにしていました。

先ほど、一人一人の呼名がありました。皆さん一人一人の「はい」という返事に、今まさに勢いを増しながら伸びる新芽の逞しさのように、爽やかで心地よい響きを感じていました。それは、自分で選び決断して臨むこれからの高校生活が、若い芽を育て、いずれ大木になっていくための力を育む場であるとの思い、その自覚をもって新しい世界に飛び込んでいこうとする皆さんの希望や決意が伝わってきたからに他なりません。

この返事は、スポーツに当てはめれば、開会式での選手宣誓。返事に込められた思いは、自分の力で自分の未来を切り開いていくための知識や心の強さ、行動力を高め育てる今後3年間の出発点とするべき大切な初心となるものです。

さて、新入生の皆さん、本校生は伝統的に「白布健児」とも呼ばれます。白布とは校舎が建つこの地の古い呼び名であり、健児とは意気盛んにして行動力に優れた若者を言う言葉です。代々の本校生は、こう呼ばれることを誇りとし、またこう呼ばれるに恥じない高校生であることに努めてきました。

また、定時制の生徒たちは、ほとんどが昼間はアルバイトなどを通じて社会とつながりながら、学校生活では県内定時制の中でも抜群の出席率を維持しています。苦勞を背負いながらも学習に励み、昨年度も、一昨年度も、就職内定100%を県内のどこよりも早く達成した優れた先輩たちが作ったよき校風があります。

「薫習」という言葉があります。「かおる」という漢字と「習う」を並べた熟語ですが、お香を焚いている部屋にある衣服には自然といい香りが染み込むように、よい環境、よい仲間、よい集団の中で生活すると、自然と様々な学びの機会を得ることになる、という意味でも使われる言葉です。全日制、定時制ともに、本校には先輩方が築いた伝統という力の下に、まことによい教育的風土が整っています。その中で、思い切り活動し、誰しもが持って生まれた資質や可能性を最大限に高め、自分の花を咲かせて欲しいと念願します。また、属する集団の中で、場面によって適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮しながら、よりよい集団づくりの実践者となり、加えて一人一人が新たな伝統を作る者となることを期待します。

ところで、新入生の皆さんは今日教室に入って、正面に「至誠」と「突破力」と書かれた額を目にしたはずです。「至誠」は、明治の時代から本校で受け継がれてきた教育の基本理念であり、「突破力」は、これからの時代を生きる皆さんに身に付けてほしい生きる力を象徴する言葉です。これまでもそうであったようにこれからの高校生活には、自分の力で乗り越えなければならない課題が待っています。それらを、自分で考え判断し実践することを通じて乗り越えていくたびに、新しい自分との出会い、新しい自分の発

見が重なっていくはずです。乗り越えるための力、「突破力」には、知識や技能、精神的な強さや健康な体力も必要です。それらが高めることに努め、高校生活だけではない、その先の皆さんの未来につながっていく総合的な人間力を逞しくすることこそが、高校での学習活動の重要なところですよ。

詩人の坂村真民（さかむら しんみん）さんに、「念ずれば花開く」という言葉があります。「念ず」とは、心に強い願いを持つこと。持ち続けることです。それは確かな目標を持つということと同じ意味と言えます。高校生活を通じて自分はどんな人間になりたいのか、どんな未来を思い描くのか、そのための進路をどう決定するのか、目標を持つことは、皆さんの学校生活をより積極的なものにしてくれるはずですよ。逆に、目標を持たないとき、生活は受け身になり日々が惰性に陥ります。この目標に対する思いが強いほど、自分の日々の行動に自然と反射され、自分が少しずつ変わっていきます。目標の確かさは、工夫の上手な人間を育てます。そして、意志の強い、根性の据わった態度を作ります。周りの見る目も対応も変わってきます。例え、一日一日の変化は小さくて目に見えなくとも、確実に積み重なっていくものが自覚できるはずですよ。そしてある時つぼみが生えて、そこに大きな花が咲くこととなります。そういう意味を持った言葉ですよ。

若者にためらいは似合いません。真っ直ぐに目標に向かっていく意志と行動を「志」と言いますが、この「志」を自分の中に育て、伸び盛りのエネルギーを大いに発揮しながら失敗を恐れず、次から次へと壁を乗り越える高校生となることを心から願います。遠くからは大きく高く見える壁であっても、一步一步近づいて見れば、大概是昇り口は見つかるものだという事を、今日の日の初心としてほしいと思います。

さて、御列席いただきました保護者の皆様、皆様のお喜びもひとしおと推察申し上げ、改めてお祝いを申し上げます。まことにおめでとうございます。

また、この場を借りまして皆様にはお願いもがございます。

学校といたしましても、生徒諸君が将来、社会の有為な存在として活躍するための発達、成長を全力で支えてまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様の成長をともに支える仲間として、これからの本校の教育活動に対する御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様には御多忙の中、御臨席を賜り、新入生の晴れの門出に花を添えていただきました。新入生共々心から感謝申し上げますと共に、今後とも本校の教育活動に対して、御理解、御支援を賜りますよう、改めてよろしくお願い申し上げます。

終わりに、本校の基本精神である「至誠」の意味に、あらためて思いを致し、また、新入生諸君の限りない可能性に大きな期待を込めながら、入学式の式辞を閉じます。

平成二十九年四月七日  
栃木県立真岡高等学校長 菊地 透